

高退教だより

2023年5月16日
No. 177

発行 千葉県高等学校退職教職員の会

千葉市中央区中央 4-13-10 千葉県高教組気付 Tel 043-227-1347

第52回千高退教総会

仲間が集い、お互いの現状を語り合おう！

6月3日(土)午前10時半～ 教育会館303号

事務局長 平良文男

現在私の健康保険の負担割合はなんと3割。戦後のベビーブーム世代として生まれ、「受験から始まって墓場まで競争だね」といわれてきた。最近まで2割だった負担割合がやっと1割になるのがせめてもの家計の助けになると期待していたら、雲行きが怪しくなり、非常勤講師を頼まれてやっているので2割かなとふんでいたら、とんでもない結果になった。最近、月一回の血圧降下剤をもらいに病院に行き、簡単な検査をしたら約5,000円を請求された。

更に不安を掻き立てられているのが、マイナンバーカードである。これがないと保険証の代わりにならない、つまり病院に行っても受け付けてくれないという脅しを政府がかけている。命に係わる大問題である。私の住んでいる木更津市のマイナンバーカード普及率は約80%になっているらしい。多くの新聞記事でも取り上げているように、市は派遣職員を雇って、特別養護老人ホームに職員が入り手続きをするなど、なりふり構わず進めている。政府は普及率を上げないと各自治体への地方交付税を削るぞという脅しをかけている。フランスでは、年金の支給年齢を2年遅らせる政府案に対して、市民による大きなデモがいまだに行なわれている。身に降りかかった火の粉は振り払うのが当たり前という権利意識が育っている。私たちの所属する日退教も退職者連合に所属し、国会議員とともに関係省庁

と交渉を随時行っている。政府も私たちの団体規模がどれほどの量と質を持っているのかを分析しながら対応している。まさに「闘わなければ、私たちの生活は破壊されていく」、これが現実ではないだろうか。



平良文男事務局長

岸田内閣は原発再稼働どころか、原発新增設も推進するという、世界に類をみない危険きわまりない政策を取り始めている。3.11事故以来、一度原発が重大事故を起こせばどうなるのか、私たちが逃げ隠れる場所は狭い日本には存在しないのは明白ではないだろうか。東京での「さよなら原発集会」に行けない高齢者は地元で声を上げよう、と始まった地元の君津郡市での「脱原発、再稼働反対 in 木更津」は、現在、月1回の4市巡りのデモ行進を休止している。私自身、なんとしても皆さんと相談して復活するつもりで行動している。千葉高退教は他面では、東葛地区を中心に開設されている(自主)「夜間中学」の設立・運営に高退教の仲間が多くかかわり、船橋市での自主夜間中学、そして千葉市での「公立夜間中学」開校へと引き継がれている。皆さんの高退教への参加を心待ちにしています。

年金が少し増えます

会長 越川 薫一

既裁定者の年金が1.9%あがります。理由は、物価変動率が2.5%上がったことによるものです。なぜ同じではないのかというとマクロ経済スライドの過去3年間の未調整部分を差し引いたからです。新規裁定者は、名目手取り賃金変動率が2.8%であったためそれを適用したものです。新規裁定の場合、物価変動率より名目手取り賃金変動率が高い場合はそれをとるという規定があるのです。この規定が適用されたのははじめてです。

ご存じの通りのインフレ下でそれを無視して規定どおりというのは、年金生活者の生活を軽く考えているのではないかと疑いたくなります。

言葉の意味を説明します。

新規裁定者とは67歳以下を言い、既裁定者とは68歳以上を指します。

実質賃金変動率とは2019年から2021年までの平均で、物価変動率は2022年のものです。話は飛びますが、子供の養育費の負担は厳しいですね。

久留里線（久留里駅～亀山駅）の存続を求める活動

君津支部幹事 榎本 護

採算割れの久留里線が廃線に追い込まれるのではと、危機感を覚えた沿線住民の有志が集まって、『JR久留里線と地域を守る会』を発足させた。今年の1月14日に久留里線にかかわる袖ヶ浦市、木更津市、君津市の住民が大勢久留里の会場に集まり、意見を交換した。その後、3月26日に上総公民館で総会を開き、役員体

制を確立して本格的に活動し始めた。また、1月から取り組んだ周知活動で、地域の住民を中心に6000筆もの署名が寄せられた。

目下、この署名をJRに提出するために、三浦久吉代表、都築事務局長がJR東日本千葉支社に面会日の交渉を行っているが、煮え切らない返事が返ってくるばかりで、いまだに日取りが決まっていない。

久留里線の利用者の減少を止め、更には増やすために、JR東日本、県、3市、そして我々住民が知恵を出し合って、久留里線とその沿線地域や房総の活性化に取り組んで行かなくてはならないと思う。



「変わりゆく沖縄の現実から考える平和講演会」(2023/02/09)

—アンケートに記述があった感想からの抜粋—

(まとめ 事務局長 平良文男)

○ニュース等で行われていることについて「なるほどなあ」と思っても、それを何のために？正しいことなのか？という視点で見えていなかったの、参議院議員さんの声や現地の人々の声を聞くのは大切だと思った。(20代・男性)

○・「安保三法案」が提出された背景がよくわかりました。・すべて閣議決定されることの“違法性”、ますます“政治”は遠い課題になり、国民、市民の関心も薄れていきます。(あきらめ)・節約ではなく“怒り”を、そして緩やかなつながりを大切に反撃しましょう。(60代)

(3面に続く)

○ グローバルな視点で「仲良く」していかなければならないと改めて感じた。平和と一言で言っても、様々な立場や捉え方があるのだと再認識した。現在、私の学級には、中国、韓国、インドネシアにルーツのある子が一緒に生活している。改めて、皆仲良くするように指導していきたい。(40代・男性)

○ ・断片的に見聞きしていた辺野古の問題の流れが良く理解できた。

・政府の横暴に泣くのは、沖縄県民であることが伝わってきた。

・資料をもう少し、取捨選択した方が、わかりやすかったように思う。(60代・女性)

○ 今回の講演を聞いて、単純に沖縄の問題ではなく、日本全国、また世界中の危機にすべてつながりかねないということがわかった。講演の中にあつた「自分事として関心が無い」という点はまさに自分にも当てはまり、改めて「平和」ということについて考えさせられました。知らなければ、いろいろな物事がどんどん進んで言っしまい、危機を感じる事が出来ない。しっかり知って、我々が考え、行動していかなければいけないと感じた。(40代・男性)

元 千高教組委員長
故 矢野忠昭(77歳)さん
を偲ぶ

千葉支部 床枝弘之

それは春分の日でした。桜が例年より早く満開を迎えようとしているというニュースを見ていた時、矢野さんの訃報を知りました。そして、散り急ぐ桜を眺めては、矢野

さんという心の支えを失った寂しさが日に日に込み上げてくるのでした。

「高退教だより」に、矢野さんの追悼文を寄稿させていただくにあたり、本来なら高教組委員長、書記長としての功績を語らなければならないのですが、私にとって今でも心に残る矢野さんとの思い出は、組合運動の表舞台のものではなく、穏やかに微笑みながら寄り添ってくれた姿なのです。そのため、甚だ私的な内容になってしまうことをお詫びいたします。

矢野さんとは、今から38年前に出会いました。その時の穏やかで明るい人柄は生涯変わることはありませんでした。糖尿病での教育入院を終え、食事療法で養生している、と言っていましたが、その時は晩年の闘病生活を想像することはできませんでした。

矢野さんからは、「やさしさ」と「いたわり」をたくさんいただきました。私が生徒との関係に戸惑い、教員としての資質に欠けているのではないかと悩んでいた時、「生徒に『力』なんて必要ないよ。床枝さんらしくないじゃないか。」という矢野さんの言葉に救われました。肩の力が抜け自然体で生徒と接することができ、教員生活を続けることができたと思います。生徒に対しても仲間に対しても「やさしさ」にあふれ、「話せばわかる」と言葉のもつ「力」を教えてくださいました。

矢野さんの言葉は、常に仲間への「いたわり」がありました。私は、組合員は「反権力」であるべき、と考えていました。そんな私に「組合員は思想で結びついているんじゃないよ。情念だよ。」というのでした。「みんな一人では弱いからね。」

(4面につづく)

大切なのは、人と人との結びつきであり、仲間を作るということは、理論で論破することではなく、仲間に寄り添うことなのだ。

私の人生の節目には、必ず矢野さんがいました。傍らで、時には遠くから「人生」を教えてくれた矢野さん、ほんとうにありがとうございました。心よりご冥福をお祈りしております。

***矢野さんの本部役員略歴**

書記長	1996年度～1999年度
中央執行委員長	2000年度～2005年度



カンパへのお誘い

太田洋吉(事務局)

カンパは、ロシア語 кампания (kampaniya、カンパニア、英語の campaign)の略です。本来は政治闘争で、大衆に訴えて目的を達成する組織的活動をいいます。日本では、目的遂行のための「資金集め」に用いられます。募金・拠出・義援金・寄付・浄財も類語です。高退教の目的は、会員の親睦や研修、社会的政治的問題への取り組みです。

2022年度のカンパの状況を報告します。44名128,000円が寄せられました。人数は会員数の1割強になります。金額別では、千円4名、2千円15名、3千円16名、5千円8名、6千円1名でした。2～3千円が平均的な金額です。

数年前までは、カンパを東日本大震災支援、沖縄反基地支援、反戦平和活動のための三つに金額を分けていましたが、現在は高退教活動において、「総会」等諸会議のほか、「日退教の活動交流会」「研修旅行」「憲法改悪阻止」などに活用しています。

高退教への参加・協力はカンパに限らず、様々です。しかし集会・研修会・講演会・署名活動などには資金を必要としています。会員の皆様に、可能な範囲での参加・協力をお願いします。

岐路20

船橋支部幹事 長澤淑夫

カズオ・イシグロ脚本の映画『生きる living』を観た。あの黒澤映画を1953年のロンドンに移し、主演に名優ビル・ナイを起用したりメイクである。作品は黒澤版に忠実に作られているが、よい脚本と演技故に、この企画は成功した。解説によると原作はトルストイの『イワン・イリッチの死』だという。知らなかった。ところで、この映画の展開に大きな役割を持つマーガレットは役場を辞めて、高級喫茶店のチェーン店に就職した。その時、店長に採用されたと言っていた。これは結局すぐには実現せず、そこに彼女は不満を持っている。そこに余命半年を知らされ、遊んだり、ブラブラしたり的主人公ウィリアムズが訪ね、彼女と会話を重ねる中でハタと人生の秘密のようなものに気づき、市民課の仕事にもどり、公園作りに奮闘するようになっていく。市民課の課長机に戻ると、マーガレットの席には別の女性が就職し、同じ仕事をしている。映画からはその賃金までは不明だが、一つの椅子が空くとその職務つまりジョブにつく人を募集し、同じ仕事を同じ賃金とするジョブ型社会がここでよく分かる。つまりその椅子に職務と賃金が固定されているのだ。ここには学卒一括4月採用や内部昇進が原則としてない。だからマーガレットのように店長というジョブを希望し、採用となればいきなり店長の職務を遂行しその賃金が支払われる。こういう仕組みのジョブ型社会には、日本にある個人査定はなく、企業横断的組合の交渉で集团的にジョブごとに賃金は決まっていく。映画はこういうことも気づかせてくれた。

(編集後記)

連休の前後で、編集日程が窮屈でした。なんとか高退教だより177号を送ります。

(編集係 小鳥)